



7/2 読売新聞
水難事故 浮いて救助待つ

夏休みを前に、高崎市PTA連合会は11日、水難事故の対処法を学ぶ講習会を市城南プール（高崎市下和田町）で開いた。写真。小中学校のPTA代表約70人が参加し、高崎市等広域消防局の隊員らが講師を務めた。隊員は、海や川に落ちた際は慌てず、浮いて救助を待つことが重要と説明。おおむけの姿勢で鼻と口だけを水面に出し、小さく呼吸をして肺を風船代わりにするのがコツという。服を着たままプールで体を浮かべる参加者に向かって、「浮いて待て」と叫びながら、浮輪代わりのペットボトルを投げる訓練も行われた。



7/4 上毛新聞
「浮いて待て」

水難事故防止へ
保護者が講習

高崎 水難事故から身を守る知恵を得ようと、高崎市PTA連合会（大沢博史会長）は11日、服を着たまま水の中で救助を求めるための講習会を、市内のプールで開いた。写真。

講習会は「浮いて待て」を合言葉に、高崎市等広域消防局の指揮

隊員が講師役となつて、小中学生の保護者に当たる連合会の役員ら70人を指導。水害や事故などで着衣のまま入水することがあっても慌てず、胸の前でペットボトルなどを抱えたり、手足を大きく開きながら救助隊を待つ手法を学んだ。

参加した会社員の清水淳さん（50）＝同市宮沢町＝は「意外と浮いていられるものだなと思った。子どもに教えたい」と話した。